

A 芸術（書道）における育成をめざす「資質・能力」

育成をめざす「資質・能力」

◎ 書に関する見方・考え方を働かせて、書道の幅広い活動を通して、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、表現を工夫して表すための効果的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする力を育てる。
- (3) 書の創造的活動の喜びを味わい、生涯にわたり書を愛好する心情をはぐくむとともに、感性を高め、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、芸術としての書を通して生活を心豊かにする態度を養う。

※ 別添10-1「芸術科(書道)において育成を目指す資質・能力の整理」(別添資料P.57)及び別添10-2「芸術科(書道)における教育のイメージ」(別添資料P.58)より作成

(1) 知識・技能 (2) 思考力・判断力・表現力 (3) 学びに向かう力・人間性等

資質・能力を育成する学びの過程

表現領域においては、知識や技能を活用しながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫していく過程、鑑賞領域では、書表現を創造的に味わうことを通して、文字や芸術としての書の伝統と文化について深く捉え、文字や書の効用を生活や社会の中で生かしたり、作品の意味や価値を考え、書を味わって深く捉えたりする過程が示されています。

芸術科(書道)においては、表現及び鑑賞の活動に共通に働く内容を、書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きを捉えることとして位置付けています。



◆各校で考えてみましょう

別添10-1「芸術科（書道）において育成をめざす資質・能力の整理」を読んで具体的な単元目標の設定をしてみましょう。

B 芸術（書道）における「見方・考え方」

見方・考え方

芸術科（書道）においては、書表現のよさや美しさを感じ受することで、書と豊かに関わることから書の創造的活動が展開します。表現や鑑賞の書道の幅広い活動を通して知識・技能や思考力・判断力・表現力等を互いに往還させながら深め、生活や社会の中での文字と書や、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力の育成につなげます。このときに働かせるのが「芸術科（書道）における見方・考え方」であるといえます。

【芸術科（書道）における見方・考え方】

感性を働かせ、書を、書を構成する要素やそれらが相互に関連する働きの視点で捉え、書かれた言葉、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの関わりから、意味や価値を見いだすこと。

芸術系教科・科目の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象や事象を捉えることです。
「**身体を通して、知性と感性を融合させながら捉えていく**」学びを他教科等以上に担っています。
また「感性」は知性と一体化して創造性の根幹をなすものであり、芸術系教科・科目は子どもたちの創造性を育む上でも大切な役割を担っています。



なお、学びの過程において困難さを感じる生徒への対応も必要です。

◇ 指導の工夫、手立ての例については、こちらまで 

クリック

◆各学校で考えてみましょう

「多様性の包容、柔軟な発想や他者との協働、自己表現とともに自己を形成し、新しい意味や価値を創造していく」ためには、具体的にどのような授業改善を行うことができるでしょうか。

C 芸術（書道）における教育内容の改善・充実

芸術科（書道）における学習過程のイメージ

書表現との出会い

書のよさや美しさを感じる

表現領域

表現及び鑑賞の活動に共通に働く内容

書を構成する要素とそれらの相互に関連する働きを捉えること

鑑賞領域

芸術科（書道）においては、書に対する感性（外界の様々な刺激や印象に対して鋭敏に反応する心の働きであり、価値や心情を感じ取る力であり、芸術を創造する根源をなすものである。（解説 P 107））を働かせ、表現・鑑賞のそれぞれの領域において、書を構成する要素による思考・判断、言葉による思考・判断により知識・技能が往還しながら深まり、豊かな情操、生活や社会における文字や書に豊かに関わる資質・能力の育成につながっていきます。



教育内容の改善・充実

芸術系教科・科目においては授業で学習したことが、これからの自分たちの生活の中で生きてくるとい実感が持てるよう、指導の改善・充実を図ることが求められています。

生活環境の変化に伴い、学校で取り上げなければ
出会うことのない教材や活動

伝統的な書式で和紙の便箋や封筒を使用して手紙を書く。（例）

芸術系教科・科目の特質に応じた
言語活動の充実

言語を用いた言語活動を行うほか、言語以外の方法を用いた言語活動や、表現されたことを捉えて言語化する言語活動を行い、思考力・判断力・表現力等を高める。